

敦賀発電所2号炉  
新規制基準適合性に係る現地調査資料  
(K断層の活動性評価)

資料4  
K断層に関するボーリングコア資料

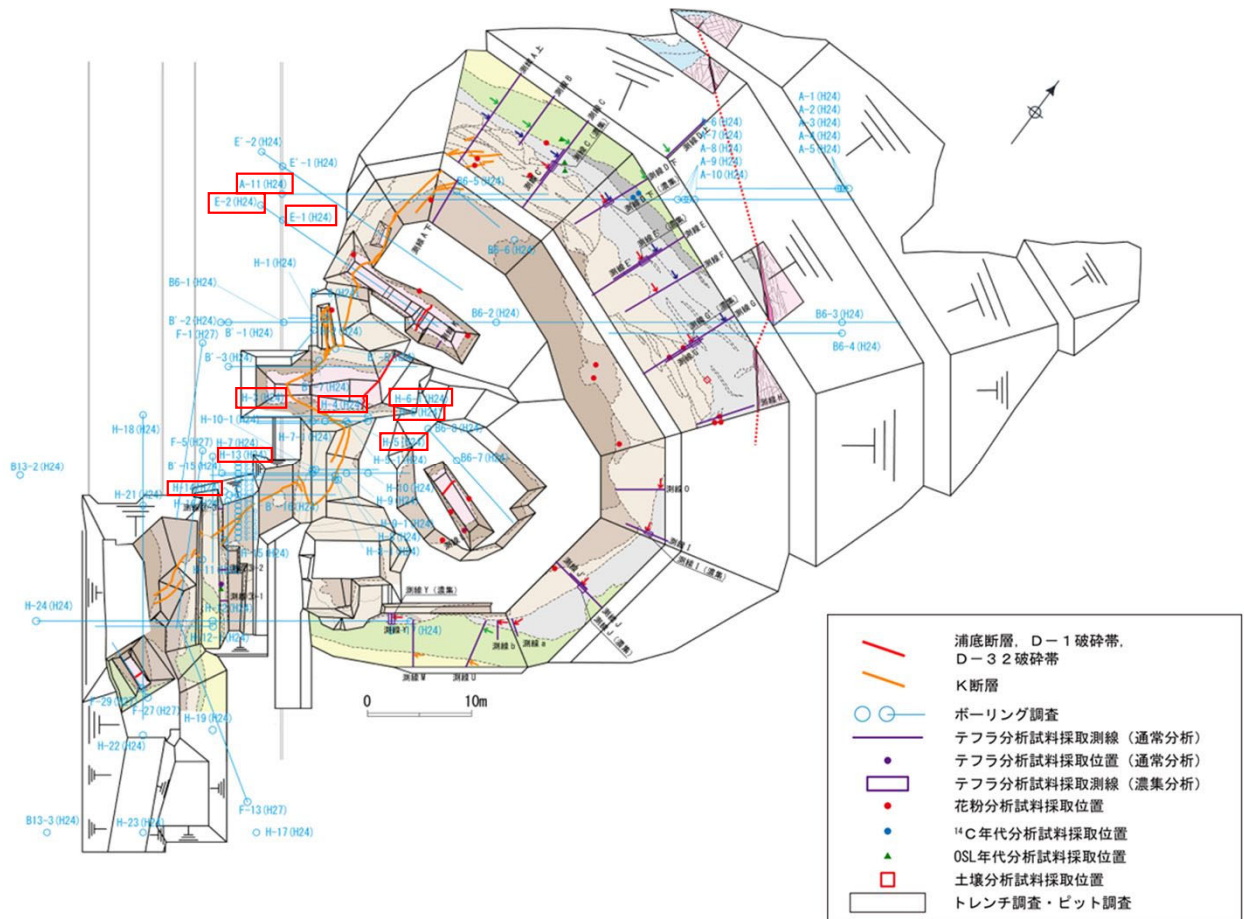
令和5年12月14, 15日  
日本原子力発電株式会社

余白

- 本資料は、D-1トレンチで掘削したボーリングのうち、補正書(令和5年8月31日提出)に掲載した断面図においてK断層の分布に係る10孔のボーリング孔を対象に取りまとめたものである。
- ボーリング柱状図は、ボーリング掘削後のボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として取りまとめたものであり、一般社団法人全国地質調査業協会連合会社会基盤情報標準化委員会の「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説 平成27年6月」に基づき、コア観察カード、コア写真等に基づき作成している。
- なお、K断層の破碎部のデータ(ボーリングコアの詳細観察結果、薄片観察結果、断層岩区分の総合評価)については、資料2に取りまとめている。

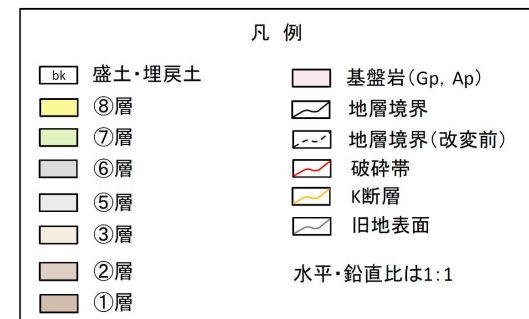
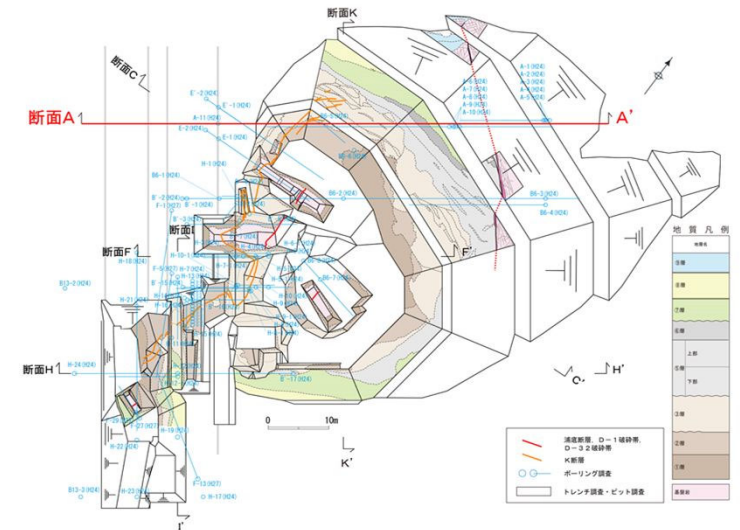
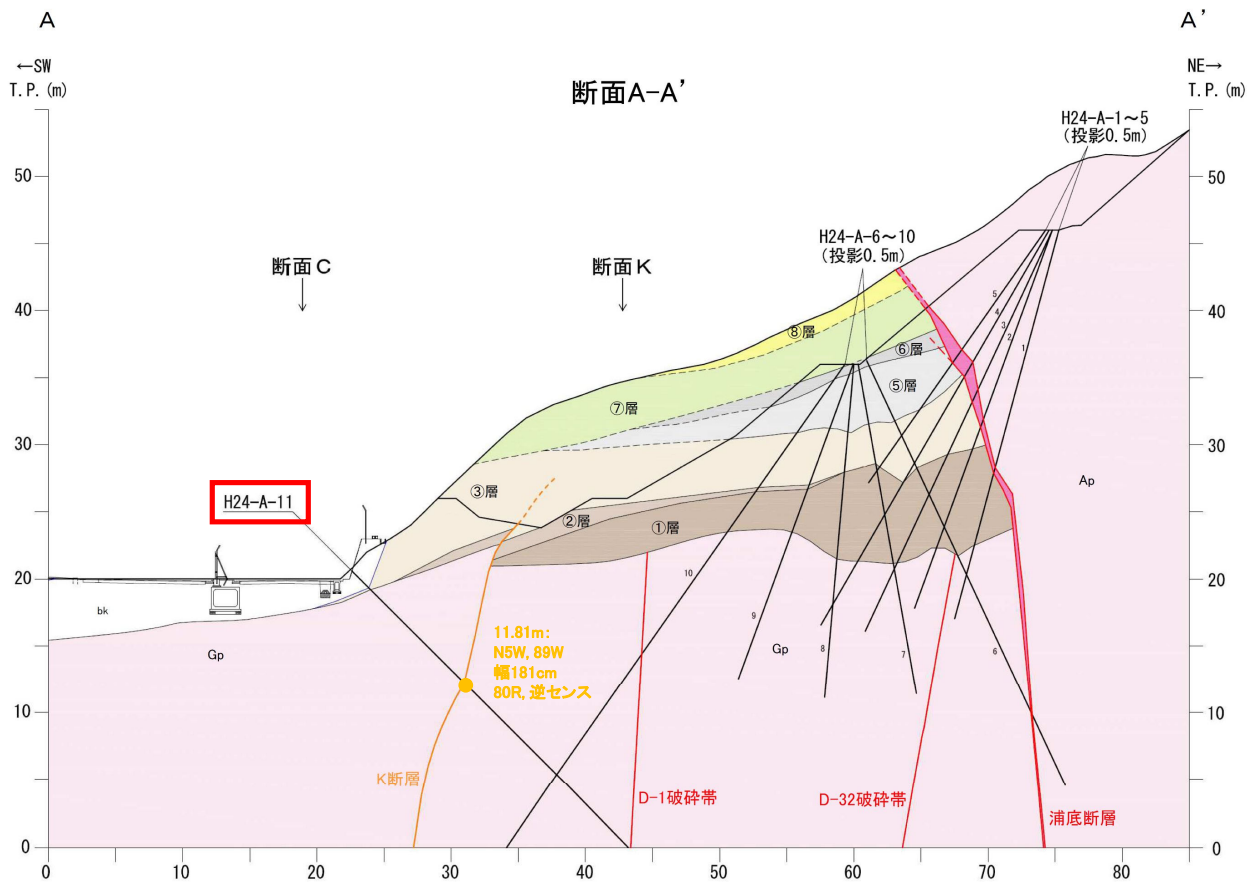
# 目次

断面図	孔名	頁
断面A	H24-A-11	11
断面C	H24-E-2	15
	H24-E-1	19
断面F	H24-H-6-1	23
	H24-H-3	25
	H24-H-4	27
	H24-H-5	29
	H24-H-6	31
断面I	H24-H-13	33
	H24-H-14	36

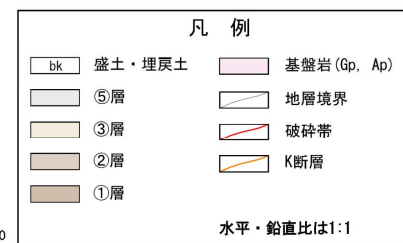
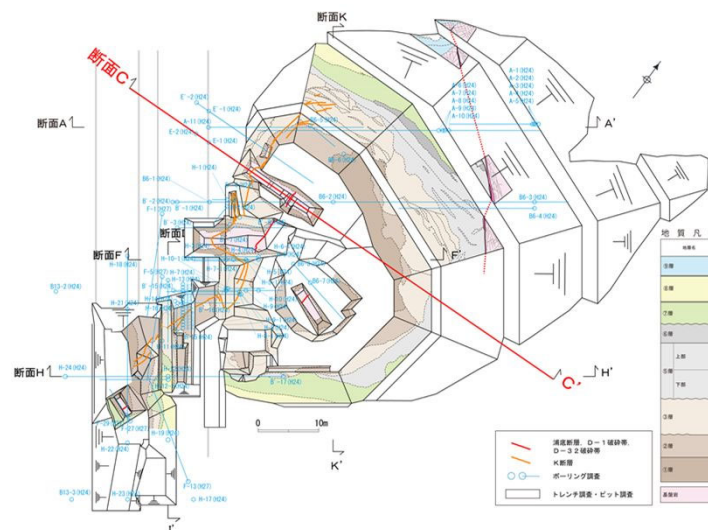
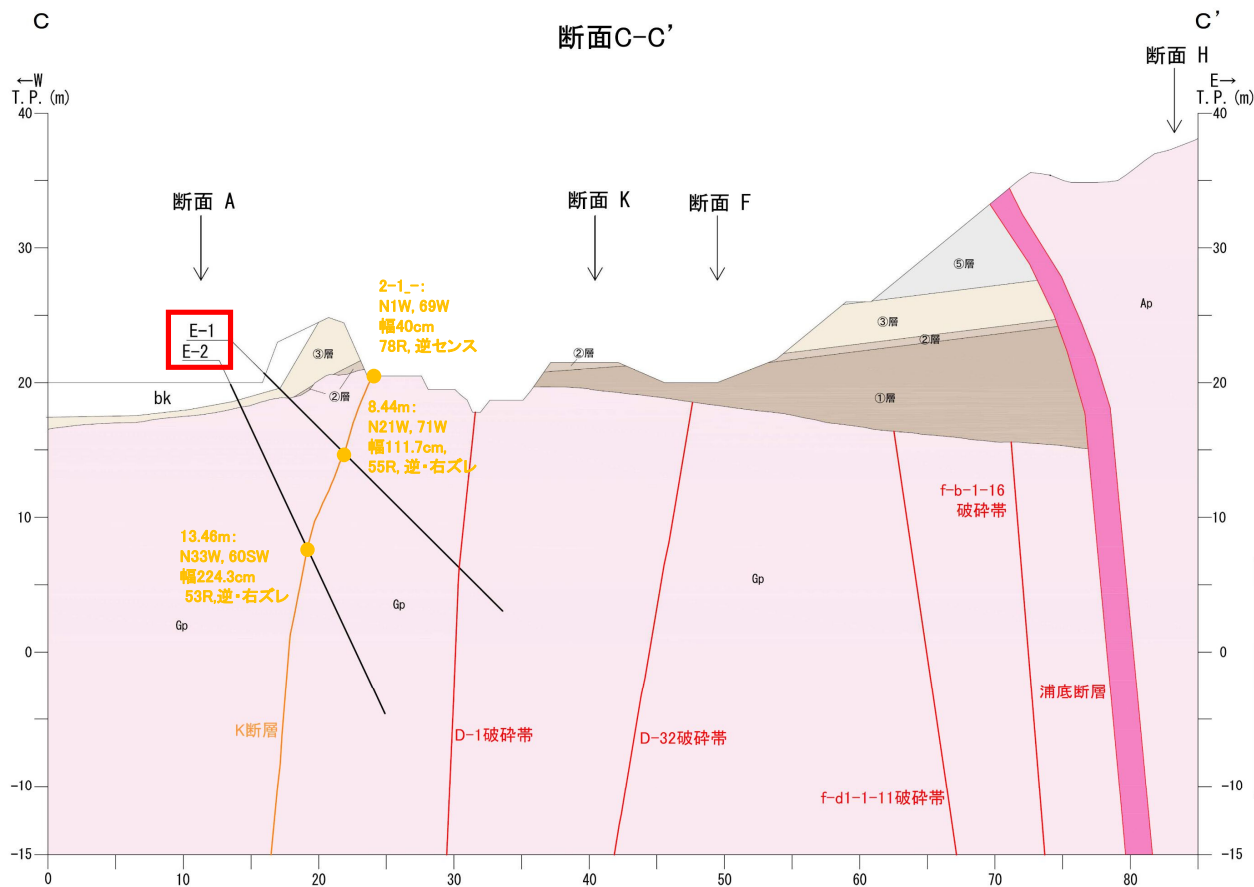


D-1トレンチ調査位置図(赤枠:対象ボーリング孔)

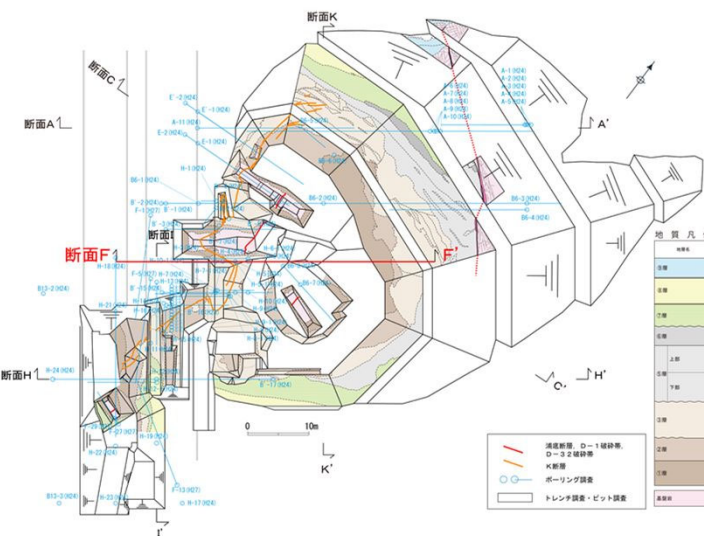
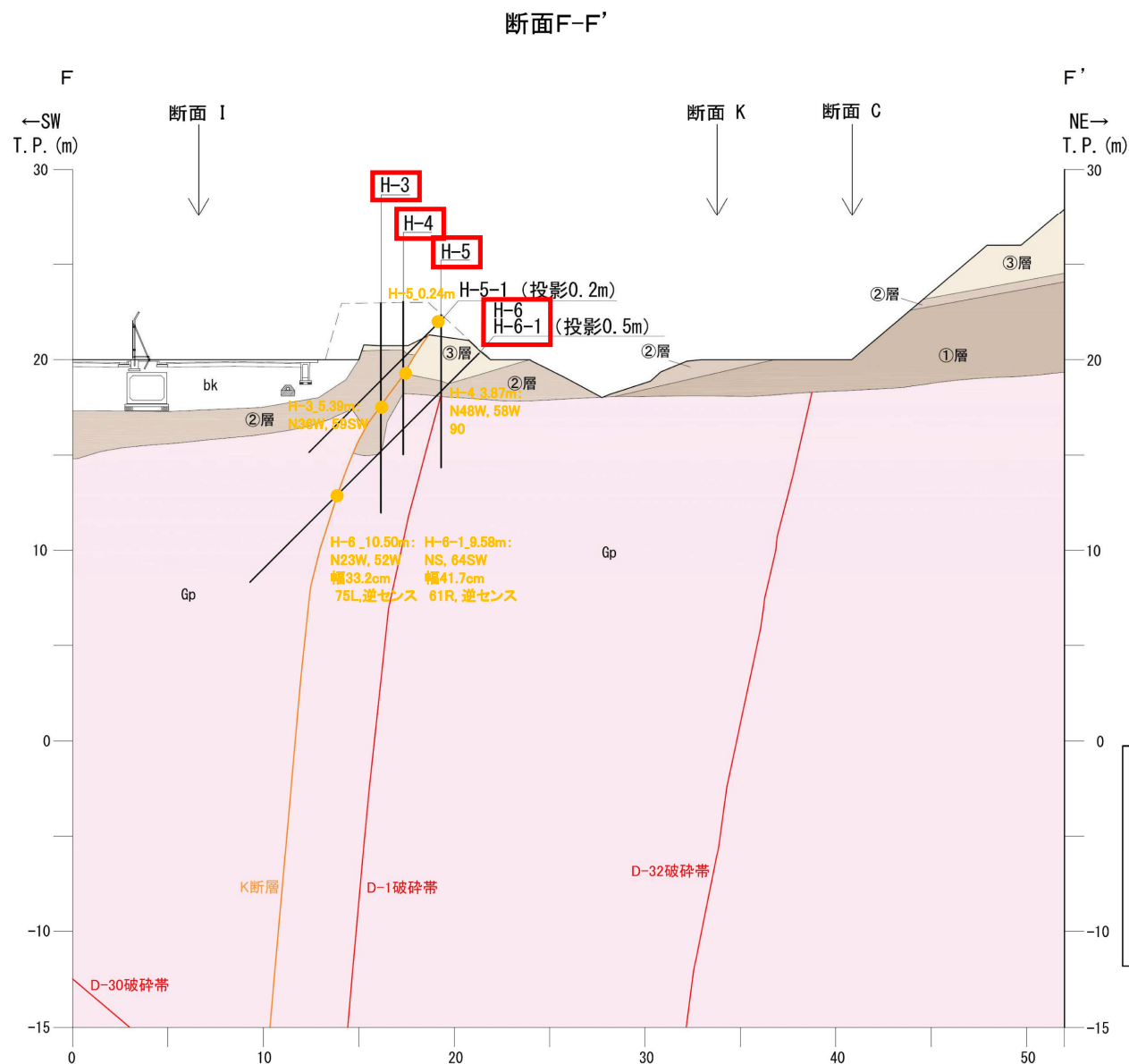
2.1.1 地層の層相及び分布 D-1トレンチ内の断面図 (断面A-A')



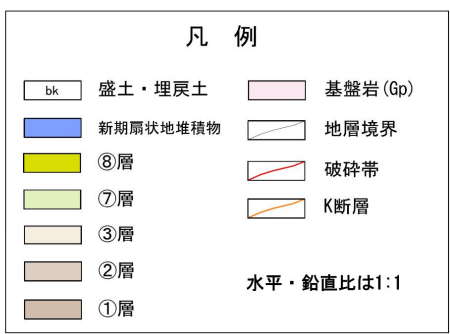
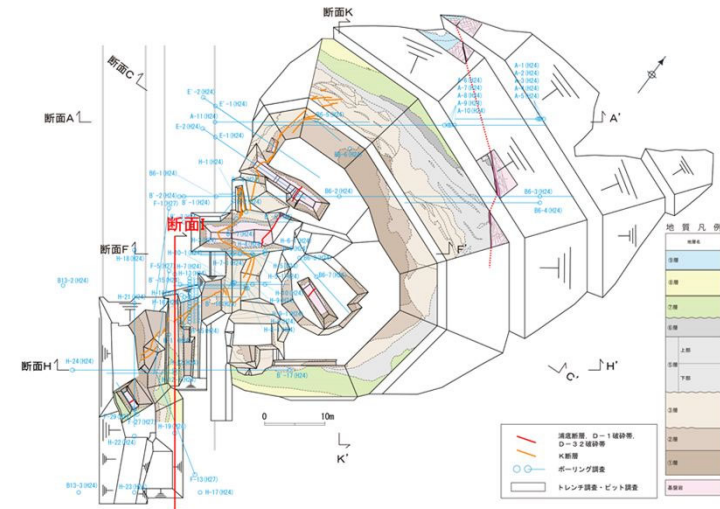
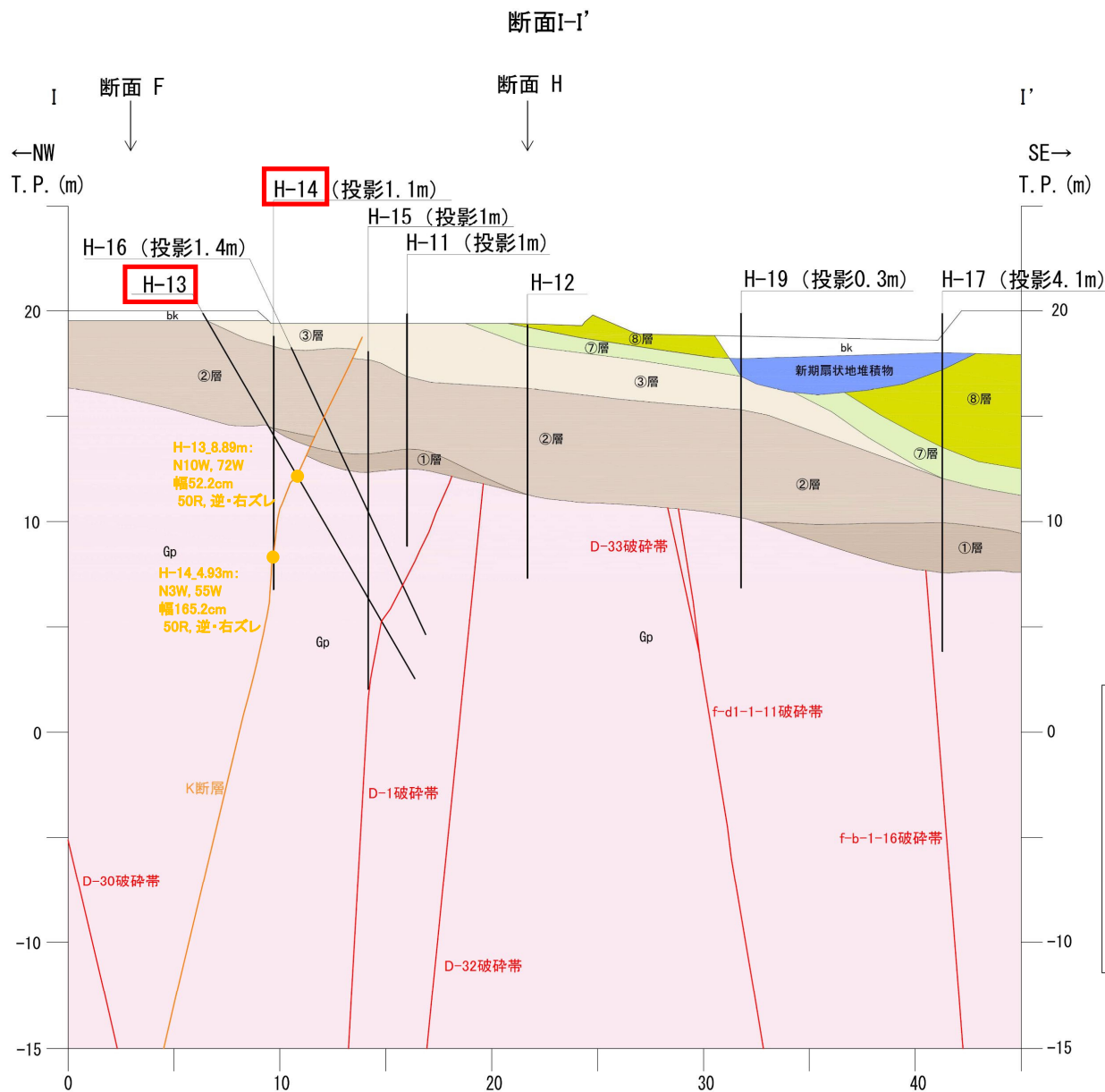
## 2.1.1 地層の層相及び分布 D-1トレンチ内の断面図（断面C-C'）



# 2.1.1 地層の層相及び分布 D-1トレンチ内の断面図 (断面F-F')



## 2.1.1 地層の層相及び分布 D-1トレンチ内の断面図 (断面I-I')





■柱状図で用いている記号の凡例を以下に示す。

・岩級区分

割れ目の状態	コア形状	硬軟				
		A <sub>g</sub>	B <sub>g</sub>	C <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>
a <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	B'	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
b <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	B'	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	II <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	III <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
c <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	II <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'
d <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'

・硬軟

A <sub>g</sub>	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B <sub>g</sub>	硬質。ハンマーで金属音がする。
C <sub>g</sub>	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
D <sub>g</sub>	軟質。ハンマーで濁音がする。
E <sub>g</sub>	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

・コア形状

I <sub>g</sub>	50cm以上の長柱状
II <sub>g</sub>	20cm以上50cm未満の長柱状
III <sub>g</sub>	10cm以上20cm未満の柱状
IV <sub>g</sub>	3cm以上10cm未満の岩片状～短柱状
V <sub>g</sub>	1cm以上3cm未満の岩片状
VI <sub>g</sub>	1cm未満の土砂状

・割れ目の状態

a <sub>g</sub>	密着, 新鮮
b <sub>g</sub>	酸化鉄付着
c <sub>g</sub>	細粒物質を挟む。
d <sub>g</sub>	割れ目として認識できない。

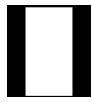
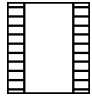
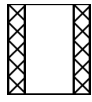
・風化

α	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
β	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
γ	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
δ	風化している。有色鉱物が黄金色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
ε	強風化している。石英および一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

・変質

1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し, 変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの(肉眼で50%以上)。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが, 原岩組織を明らかに残し, 原岩判定が容易なもの。または, 非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物, 岩片等が変質鉱物で完全置換され, 原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

・破碎度区分

区分	模様	詳細
Hc-1		粘土状部。 粘土及びシルトを主体とし、少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化している。
Hc-2		礫混じり粘土状部。 粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化が進み軟質化している。
Hb		礫質粘土状部，粘土質礫状部，礫質砂状部。 礫を多く含み，基質は粘土，シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが，礫は比較的新鮮で硬い。
Hj		粘土混じり礫状部，粘土混じり岩片状部，粘土質岩片状部，砂混じり岩片状部。 粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し，全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いものから，やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまである。網目状の粘土細脈が発達することがある。



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準入 ( ) 試験 ( ) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														N	値																			
										11.83~12.12m: 礫状破砕部 (Hj) 上端45°, 下端60~70°。不明瞭な20°前後の割れ目や底密着割れ目が多い。灰褐色を呈する。12.12~12.16m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端60~75°, 下端40~60°で両者とも波打ちながら連続。径1~3mm石英粒と粘土化した径5~10mm岩片を多く含む。白色~明赤灰色を呈する。幅20~35mmと膨縮する。12.16~12.76m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 下端不明瞭。一部で割れ目が残留するが、概ね割れ目は消滅している。20~25°で白~にぶい橙~明赤灰色、厚さ1~5mmの軟弱粘土を挟む。18.62m: 黄褐色粘土状。傾斜60°、幅3~5mm、周縁約20mmが淡緑色化し、黄鉄鉱が晶出。 ●18.80~19.30m: 破砕部 粘土混り礫状破砕部 (Hj) 上端25°でやや波打ち、下端10°。幅1~3mmの白色粘土を多く含む。21.20~21.27m: 変質により、灰白~にぶい黄褐色、土砂状となる。 ●21.40~21.65m: 破砕部 21.40~21.61m: 粘土混り礫状破砕部 (Hj) 上端は60°で直線的。下端20°で波打つ。上端に幅1~2mmの明黄褐色粘土を伴う。21.61~21.65m: 礫混り粘土状破砕部 (Hb) 下端55°で直線的。幅30~50mm。にぶい橙~灰白色。 ●25.83~26.38m: 破砕部 25.83~26.86m: 礫混り粘土状破砕部 (Hc-2) 上端52°, 下端50°で両端とも直線的。幅20mm、径1~5mmの石英、礫を少量含む。25.86~26.38m: 粘土混り礫状破砕部 (Hj) 上端30°で直線的。径10~20mmの岩片主体で、白色粘土脈が分布する。27.92m: 58°で幅1~5mm、27.96m: 52°で幅1~3mmのいずれも軟弱な白色粘土脈が膨縮しながら概ね直線的でシャープに連続する。また、両粘土脈から派生した幅0.5~1mmの同質の粘土脈も分布する。 ●29.00~29.35m: 破砕部 (D-1破砕帯) 29.00~29.05m: 粘土状破砕部 (Ho-1) 上端56°, 下端58°で両端とも直線的。幅10~20mm、灰カア7色。29.05~29.15m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 下端62°で概ね直線的。幅55mm、やや硬質。29.15~29.18m: 粘土状破砕部 (Ho-1) 下端68°で直線的。幅10~15mm。暗褐色。石英、細礫を若干含む。29.18~29.35m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 下端65~80°で波打つ。径5mm以下の礫を含む。29.63m、29.67m: 石英脈。各々幅5mm、3mm。暗灰色を呈する。31.07m: 傾斜70°で、幅2~3mmの青灰色粘土を挟む。31.07~31.90m: 変質により青灰色化する。一部礫質粘土状を呈する。31.41m: 割れ目の周縁幅20mm程度が褐色化し、下端割の幅5~10mmが径2~5mmに細片化する。34.46m: 傾斜65°で、幅2~4mmの白色粘土を挟む。																								
21				明褐灰	Eg	VIg	dg	γ	3		4	D						2/8	90	86	1.0	100	0.1	泥水10	10									
22				灰褐	Eg	VIg	dg	δ	3		5	D'						2/9	105	86	1.0	100	0.1	泥水10	10									
23				明褐灰にぶい橙	Eg	VIg	dg	γ	2		6	CL'																						
24				褐灰	IVg	cg	δ	2			7	D'						2/10	45	86	1.0	100	0.1	泥水10	0									
25				明褐灰	Eg	VIg	dg	γ	2		8	D	▽ 25.80																					
26				灰黄褐	Dg	Vg	cg	δ	3		9	D'																						
27				明褐灰	Eg	VIg	dg	γ	3		10	CL'						2/13	80	86	1.5	100	0.1	泥水10	0									
28				にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	4		11	D'	▽ 28.60																					
29				にぶい黄橙	Eg	VIg	dg	δ	3		12	D'																						
30				にぶい黄橙	IVg	cg	δ	2			13	D'																						
31				青灰	Eg	VIg	dg	γ	3		14	CL'																						
32				にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3		15	D'																						
33					Eg	VIg	dg	γ	3		16	D'																						
34					Dg	Vg	cg	δ	3		17	D'																						
	-4.17	35.00									18	D'																						

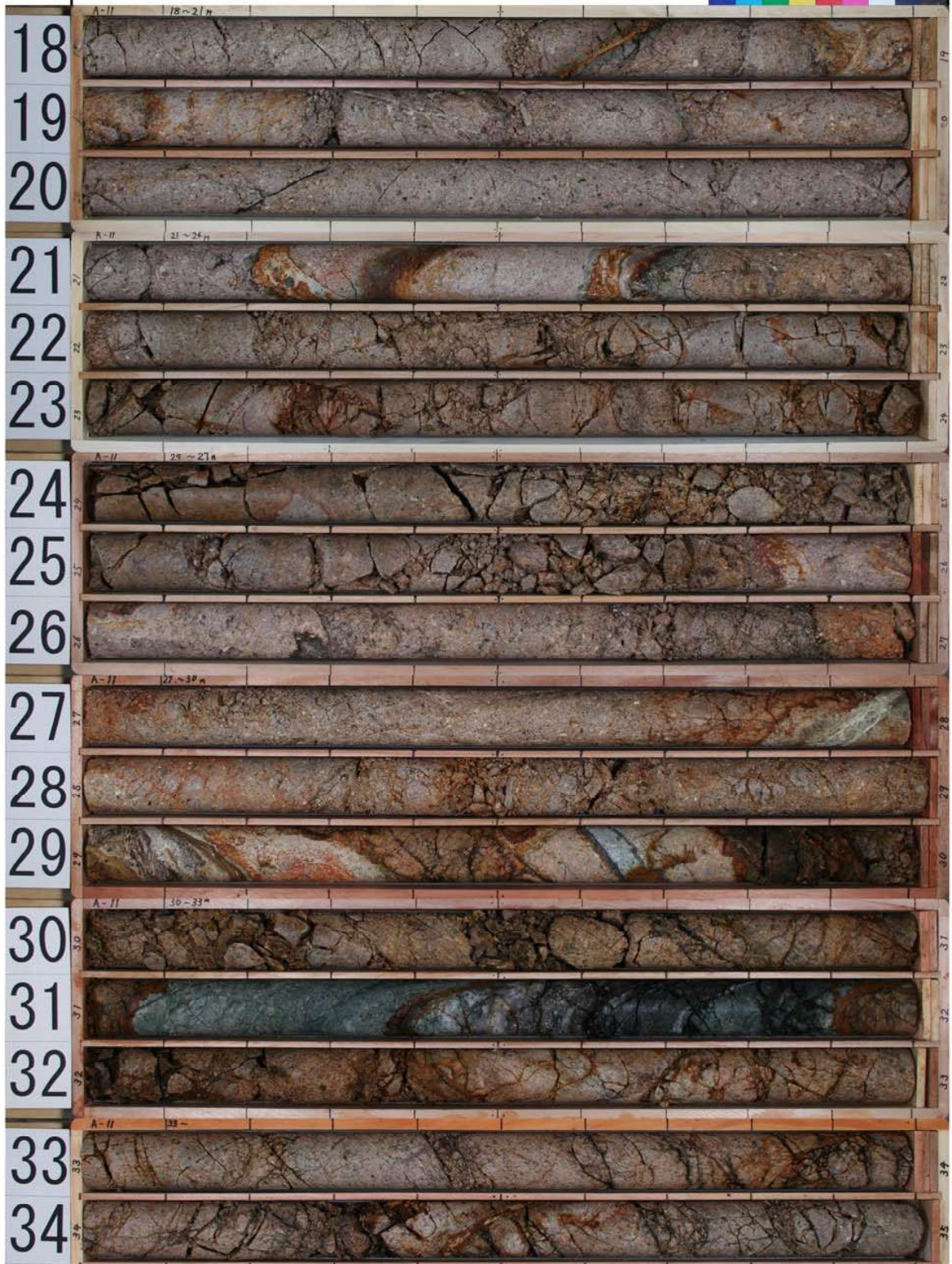
孔番 A-11 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 A-11 孔

深度 18.00m ~ 35.00m



ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.	1
----------	---

事業・工事名

ボーリング名	E-2	調査位置	X:395.862 , Y:1126.969	北緯	35° 45' 21.03"
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013年2月23日～2013年3月7日
調査業者名	主任技師			現代場人	コ鑑定者
ボーリング責任者	ハンマー			ポンプ	
孔口標高	19.86 m	角	180° 上	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°
総掘削長	27.00 m	度	0° 下	向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	標準貫入 (N値～深度) 試験					室内試験 (孔内水平載荷)	掘進速度 (cm/時)	掘進日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)																						
													N	Q	R	D	L																															
18.79	1.18	埋土		0.00～1.18m: 埋土 細粒混じり粗砂からなる。																																												
18.19	1.84	砂礫		1.18～1.84m: 砂礫 (3層) 礫は径10～20mmで角礫化した花崗斑岩の垂円～亜角礫。基質は中砂。 1.18～1.47m: 花崗斑岩礫。																																												
		明黄褐色		1.84～27.00m: 花崗斑岩 (Gp) 斑岩は径1～5mmの石英、長石。 1.84～5.85m: 風化により部分的に土砂状となる。一部に粘土が挟在する。																																												
		明黄褐色		●9.47～9.60m: 破砕部 9.47～9.51m: 粘土混り角礫状破砕部 (Hj) 上端52°で不明瞭。下端60°で直線的でシャープ。幅25mm。 9.51m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 傾斜60°で直線的でシャープ。幅2～5mmでにふい黄褐色。 9.51～9.55m: 凝質粘土状破砕部 (Hb) 下端57°で凹凸している。幅30mm。 径10mm以下の石英粒を含む。 9.55～9.60m: 粘土混り礫状破砕部 (Hj) 下端70°で凹凸して不明瞭。幅30～60mm。径10mm以下の岩片主体。 12.39～13.23m: 割れ目に灰白～淡黄褐色粘土脈が網目状に分布する。																																												
		明黄褐色		●13.23～15.82m: 破砕部 (K断層) 13.23～13.42m: 凝質粘土状破砕部 (Hb) 上端64°。下端30°で両者とも直線的でシャープに連続。径1～3mmの石英粒と粘土化した径5～20mmの花崗斑岩岩片を多く含む。粘土は上端付近10mmは軟弱であるがこの他はやや固結している。一部の石英粒と岩片はマンガン鉱染により黒色化する。白～明褐色を呈する。幅17～19cm。 13.42～13.46m: 礫混じり粘土状破砕部 (Ho-2) 上端30°。下端30°で両者とも直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と若干の粘土化した径5mm程度の岩片を含む。明褐色を呈する。幅30mm。 13.46～13.62m: 凝質粘土状破砕部 (Hb) 上端30°。下端70°で両者とも直線的でシャープに連続。形態は上記13.23～13.42mのHbと同様である。灰白色を呈する。幅8～14cmと膨縮する。 13.62～14.80m: 粘土混じり岩片状破砕部 (Hj) 上端70°。下端57°で、両者とも直線的でシャープに連続。径10～30mmの軟化著しい岩片からなり、岩片間を幅0.5～3mmの白色軟弱粘土脈が一部網状に分布する。明褐色～にふい黄褐色を呈する。幅約40cm (90°)。 14.80～15.28m: 凝質粘土状破砕部 (Hb) 上端57°。下端25°で両者とも直線的でシャープに連続。径1～3mmの石英粒と径10～20mmの粘土化した岩組織が消滅している花崗斑岩岩片を多く含む。明褐色～にふい黄褐色を呈する。幅24cm (60°)。 15.28～15.82m: 角礫状破砕部 (Hj) 上端25°。下端52°で、両者とも直線的でシャープに連続。20～30°とこれに交差する50～60°割れ目と低密度割れ目が多く、割れ目に幅1～3mmの白色軟弱粘土脈を挟むことが多い。灰褐色を呈する。幅33cm (50°)～40cm (25°)。																																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														N	値																				
	-4.61	27.00		花崗斑岩	明褐灰	cg	γ	2	δ	3	0 50 100	D'		0 10 20 30 40 50							2/28	100	86	1.5	100	0.1	泥水 10	10							
				花崗斑岩	灰褐	cg	γ	2			0 50 100	CL'									3/1	80	86	1.5	100	0.1	泥水 10	8							
				明褐灰	Dg	cg	γ	2			0 50 100	CL'																							
										15.82~18.71m: 部分的に著しく軟化し、粘土脈を伴う。 ●18.71~20.27m: 破砕部 18.71~18.73m: 粘土状破砕部 (Ho-1) 上下端70' で直線的でソーク。幅4~5mm。黄褐色。 18.73~18.75m: 粘土質礫状破砕部 (Ho) 下端15' で不連続。幅15mm。マンガンにより黒色化した岩片を含む。 18.75~18.76m: 粘土状破砕部 (Ho-1) 下端70~80' で湾曲凹凸、幅3~10mm。黄褐色。石英を少量含む。 18.76~18.81m: 礫質粘土状破砕部 (Ho) 下端70' で湾曲。幅10~20mm。径5mm前後の黒褐色岩片を含む。 18.81~18.86m: 角礫状破砕部 (Hj) 下端68' で湾曲。幅30mm、径5~10mmの角礫状。 18.86~19.08m: 礫質粘土状破砕部 (Ho) 下端62' で不明瞭。 19.08~20.17m: 粘土混り礫状破砕部 (Hj) 下端50~75' で不明瞭。白色粘土を網目状に伴う。 20.17~20.27m: 礫質粘土状破砕部 (Ho) 下端45' で直線的。膨縮し。径30mm以下の岩片多い。 ●23.68~23.87m: 破砕部 23.68~23.82m: 礫質粘土状破砕部 (Ho) 下端42' で直線的。径30mm以下の岩片多い。 23.82~23.83m: 粘土状破砕部 (Ho-2) 上端42'、下端40' で直線的。幅10~15mm。 23.83~23.87m: 礫質粘土状破砕部 (Ho) 26.55m: 幅1~2mmの緑灰色粘土を挟む。傾斜60°。																									



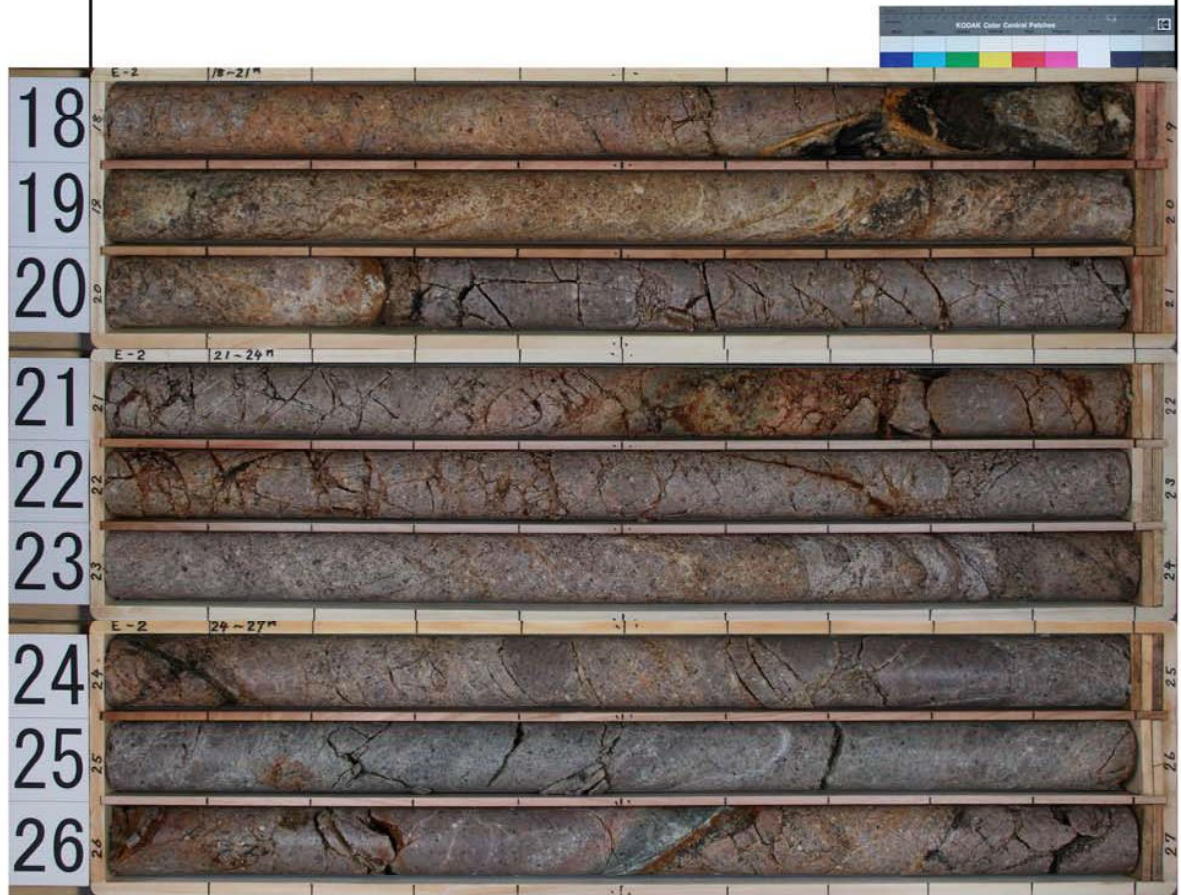
孔番 E-2 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 E-2 孔

深度 18.00m ~ 27.00m





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														N	値																			
		3.04	25.00	花崗斑岩	明褐色	Dg	Vg	cg	γ	●16.78~16.80m: 破砕部 粘土状破砕部 (Hc-1) 上端22', 下端20' で両端とも直線的 でシヤブ。幅15~20mm。  17.06~17.10m: 明褐色' 灰粘土挟 在。傾斜10~15'。幅35~40mm。 19.84m: 黄褐色粘土挟在。傾斜35' で直線的。幅2~10mm。  ●20.00~20.44m: 破砕部 (D-I 破砕 部) 20.00~20.02m: 礫混り粘土状破砕 部 (Hc-1) 上下端15'。幅10mm。にふい黄橙色 。上端は直線的でシヤブ'。下端はや や波打つ。 20.02~20.24m: 粘土混り礫状破砕 部 (Hj) 下端43' で湾曲。幅2~5mmの白色粘 土が網状に分布。 20.24~20.32m: 礫質粘土状破砕部 (Hh) 下端50' で直線的でシヤブ'。幅60~7 0mm。 20.32~20.34m: 粘土状破砕部 (Hc- 1) 下端52' で直線的。幅15~20mm。暗 褐色, にふい黄橙色を呈する。 20.34~20.44m: 粘土混り礫状破砕 部 (Hj) 下端35' で直線的。 23.56~23.74m: 変質により, 緑灰 色を呈する。	0	50	100			0	10	20	30	40	50													
21												Eg	Vg	dg	δ	3									1/22	115	86	1.5	100	0.1	泥水 10	0		
22																																		
23																																		
24					にふい 黄緑													1/23	155		1.0	100	0.1	泥水 10	0									

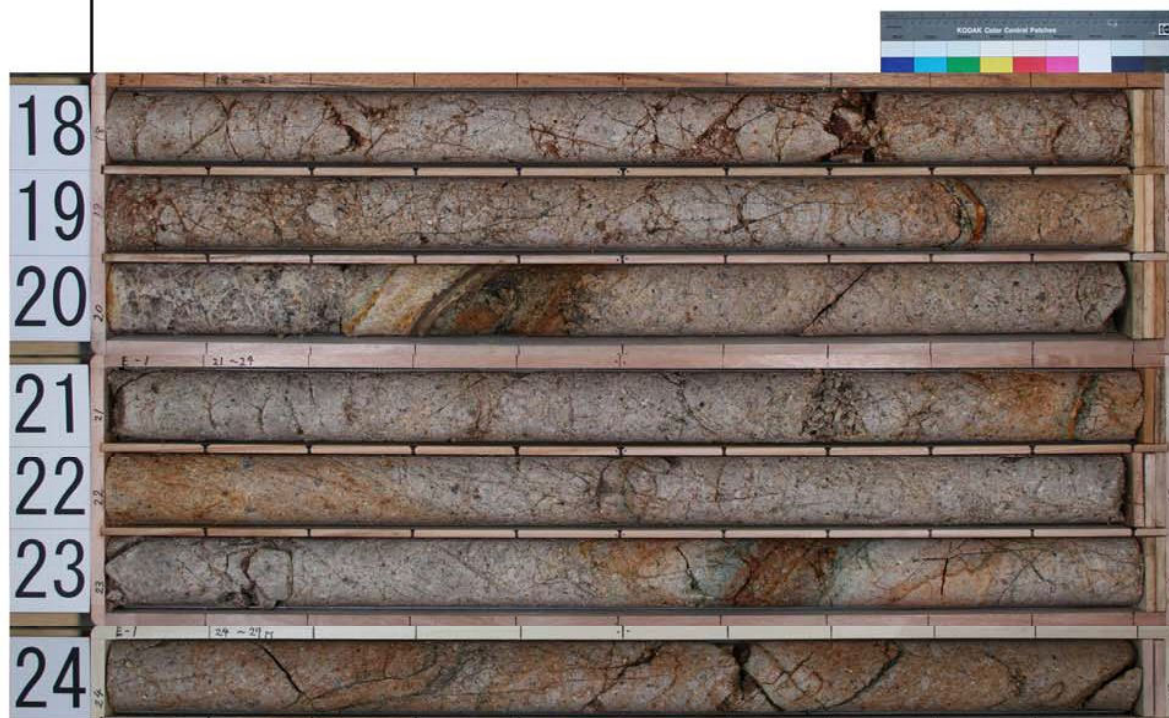
孔番 E-1 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 E-1 孔

深度 18.00m ~ 25.00m





孔番 H-6-1 孔

深度 9.00m ~ 15.00m



0~9mノンコア







孔番 H-3 孔

深度 0.00m ~ 11.00m





孔番 H-4 孔

深度 0.00m ~ 8.00m





孔番 H-5 孔

深度 0.00m ~ 8.00m



### ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.	1
----------	---

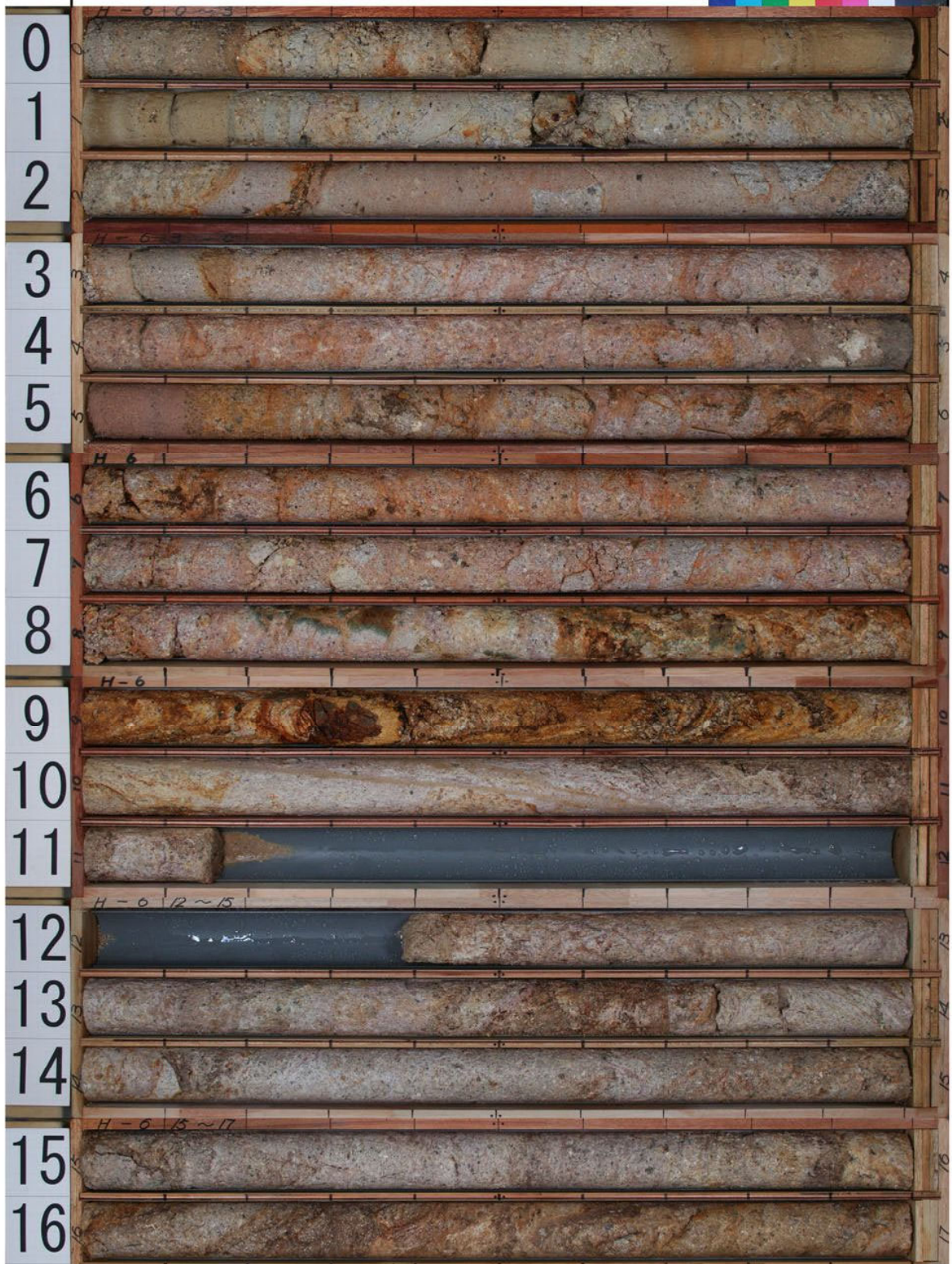
事業・工事名

ボーリング名	H-6		調査位置	X:405.817 , Y:1106.919		北 緯	35° 45' 20.71"					
発注機関	日本原子力発電株式会社					調査期間	2013 年 2 月 28 日 ~ 2013 年 3 月 7 日			東 経	136° 1' 3.49"	
調査業者名		主任技師		現代場人		コ 鑑 定 者			ボーリング責任者			
孔 口 標 高	20.34 m	角		方 向		地 盤 勾 配		使用 試 験 機 種	試 験 機	ハンマー		
総 掘 削 長	17.00 m	度						エ ン ジ ン		ポンプ		

標 尺	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 日 月	( 標準貫入 ) 試 験				室 内 試 験 ( 孔 内 水 平 載 重 )	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チューブ / ビット	給 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)											
														N 値 ~ 深度	0	10	20									30	40	50								
1	19.85	0.69		砂礫混じり砂	灰白・浅黄		明黄緑			0.00~2.27m: 礫混じり砂及び礫質砂(③層) 0.00~0.69m: 礫混じり砂 細~粗砂で不均質。細礫が混じる。 0.69~1.18m: 均質な細砂 1.18~2.27m: 礫質砂 不均質な砂。礫は径10~30mm。最大径80mmの花崗斑岩岩片。礫率30~40%。	0							2/28	50	86					2.0	100	0.1	泥水	1							
2	19.51	1.18		砂礫混じり砂	淡黄																															
3	18.73	2.27		礫質砂																																
3	18.09	3.18		礫混じり砂																																
4				花崗斑岩	赤褐色	Eg	VIg	dg	3	2.27~3.18m: 礫混じり砂(②層) 細~中砂。礫は径2~20mmの石英、花崗斑岩主体で、最大径100mm程度の重角礫が点在。礫率5%程度。 3.18~7.18m: 花崗斑岩(Gp) 3.18~5.33m: 風化・変質により赤色を帯びる。軟質な岩片状~土砂状を呈する。割れ目は消滅し、一部に灰赤色粘土脈を伴う。 5.33~5.82m: 多くの割れ目に幅数mmの灰赤色粘土を挟み込む。 5.82~6.16m: 径10~30mmの軟質岩片と細粒化した粗砂の土砂状。 6.16~6.67m: ほほ全ての割れ目が開口し、黄褐色粘土を挟み込む。 6.67~7.18m: 岩芯まで劣化し、細片~細粒化する。割れ目は全て消滅し、やや軟質な岩片が残る。	0																									
5				花崗斑岩	赤褐色	Dg	VIg	cg	2	7.18~7.51m: 砂礫 径5~30mmの重角礫と中~粗砂からなる。	0																									
6				花崗斑岩	黄褐色	Eg	VIg	dg	3	7.51~17.00m: 花崗斑岩(Gp) 7.51~8.57m: 多くの割れ目が開口し、細粒分が挟み込む。緑灰色に変質した岩片が不規則にみられる。 8.57~9.36m: 原岩組織は不明瞭。一部に緑灰色化を受ける。一部に緑灰色化した岩片がみられる。 9.36~9.92m: 軟弱な粘土混じり砂状。傾斜80°程度。幅10~15mm。黄色。 ●9.92~14.69m: 破砕部(K断層) 9.92~10.04m: 粘土混じり砂状破砕部(Hj)	0																									
7	15.26	7.18		砂礫	赤褐色	Eg	VIg	cg	3	上層76°、下層69°。上端、下端とも比較的明瞭。上端は直線状をなし、下端側は湾曲する。明赤灰色を呈する。幅4~5cm程度。 10.04~10.50m: 粘土・礫混じり砂状破砕部(Hb)	0																									
8	15.03	7.51		花崗斑岩	黄褐色	Eg	VIg	dg	3	上層69°、下層66°。灰赤色の細脈がみられ、原岩の組織は不明瞭である。一部に花崗斑岩岩片(くさり礫)がみられる。明赤灰色を呈する。幅10cm程度。 10.50~10.50m: (細)砂混じり粘土状破砕部(Hc-2) 傾斜86°。ほほ直線状に連続する。にぶい黄色を呈する。幅6~7mm程度。	0																									
9				花崗斑岩	明赤灰				4	10.50~10.66m: 礫質粘土状破砕部(Hb) 上層86°、下層72°(不明瞭)。灰赤色の細粒分からなる細脈を伴う。明赤灰色を呈する。幅3cm程度。 10.66~14.69m: 粘土混じり砂状破砕部(Hj)	0																									
10				花崗斑岩	明赤灰				3	上層72°(不規則)、下層69°(ほほ直線状をなす)。不規則に灰白色の粘土脈を伴い、原岩の組織が一部不明瞭となる。数条のせん断面を伴う。灰黄褐色、浅黄褐色~灰白色を呈する。幅1.30~1.40m程度(推定)	0																									
11	12.46	11.15		コア欠如	赤褐色				δ	11.15~12.40m: コア流出	0																									
12	11.57	12.40		花崗斑岩	明赤灰				δ	12.40~14.00m: せん断面(粘土・礫混じり砂状破砕部(Hb)相当) 上層55°、下層54°。せん断面と調和的に灰白色粘土脈が連続する。幅40mm程度。 14.12m: せん断面 傾斜41°で、シャープであるが湾曲する。上端側に灰白色粘土に富む部分がみられる。 14.67m: せん断面 傾斜69°。せん断面に幅2~3mmの灰赤色粘土がみられる。上下端には灰白色粘土が不規則にみられる。 14.69~17.00m: 原岩組織は残留するが、一部粘土化し不明瞭となる。	0																									
13				花崗斑岩	明赤灰				δ		0																									
14				花崗斑岩	明赤灰				δ		0																									
15				花崗斑岩	明赤灰				δ		0																									
16	8.32	17.00		花崗斑岩	明赤灰				δ		0																									

孔番 H-6 孔

深度 0.00m ~ 17.00m







孔番 H-13 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 H-13 孔

深度 18.00m ~ 20.00m





孔番 H-14 孔

深度 0.00m ~ 12.00m

